

学内保育ニーズ調査報告

平成 21 年 10 月

静岡大学

男女共同参画推進委員会

保育ワーキング

はじめに

男女共同参画の実現のためには、育児支援はひとつの柱であり、平成 20 年度に科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採用された静岡大学の「女性研究者と家族が輝くオンデマンド支援」(平成 20-22 年度)計画においても、学内における一時預かり施設の設置などを検討課題としている。

しかしながら、これまで学内保育所を持つ大学のほとんどが医学部・看護学部・大学病院を持つ大規模大学か、あるいは老舗の女子大学であり、その他の大学では学内保育所をあまり持っていない。医学部・看護学部のある大学や女子大学では保育ニーズが高く、優秀な看護師や女性研究者(教職員、大学院生など)の勤務・研究継続を支えるために学内保育所が必要とされていた。はたして静岡大学で学内保育所を設置するだけのニーズがあるのだろうか。また、静岡キャンパス、浜松キャンパス、附属学校園と分散し、それぞれ異なる事情を抱える本学で、いかなる制度設計が現実的なのだろうか。

すでに平成 19 年度に実施され 20 年度に報告書が刊行されている「静岡大学における男女共同参画に関する意識・実態調査」においても、保育に関する質問項目は含まれている。同調査結果によれば、小学生以下の子どもを持つ女性の教職員は地域の保育所を利用している(57%)か、祖父母に助けられている(25%)が、小学生以下の子供を持つ男性の教職員では、妻が育児をしている場合が多数(65%)であった。また、女性回答者が「病児、病後児保育」を求めているのに対して、男性回答者は「通常保育」に対する高い保育ニーズを示していた。しかし、日常的に妻が育児をしている男性が、学内にいかなる保育サービスを求めているのかは不明であった。一般に「静大にも保育所を」という声は聞くが、どれだけ利用者がいるのかはわからない。またウェブ調査であったため、回答数もニーズを確認するには不十分であった。

そこで、静岡大学の保育支援制度の設計に際して出発点となる基礎データを得るために、「保育ニーズ」に焦点を絞った簡潔な調査を全学的に行うことになった。調査対象は実際に子どもを持つ(予定も含む)教職員に限られるが、保育ニーズに関係すると思われる対象者を特定することは困難であるため、全教職員(教員と非常勤を含む職員)に調査票を配布し、以下の「該当者」に回答(匿名)を依頼するという方法をとった。

- ①現在小学校 6 年生以下のお子さんを持つ方
- ②近いうちに子どもが生まれる予定の方
- ③近い将来に子どもを持つことを望んでおられる方

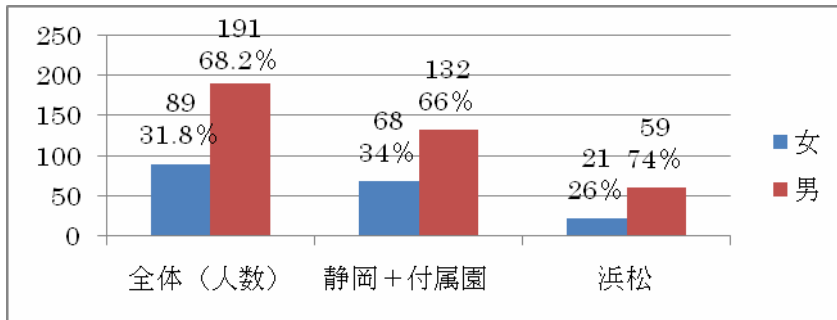
調査期間は、静岡キャンパスと附属学校園が 6 月 19 日～29 日、浜松キャンパスが 7 月 15 日～25 日であり、男女共同参画推進室で回答を集約整理した後、集計作業をデジタルセンセーション社に委託した。全体で 1483 人に配布し、280 の有効回答が得られた。その他に「該当者」でない方からも 10 名ほど、激励と賛同の「ご意見票」を頂戴した。

本調査にご協力くださったすべての方に、心からお礼申し上げます。

1. 回答者の概要

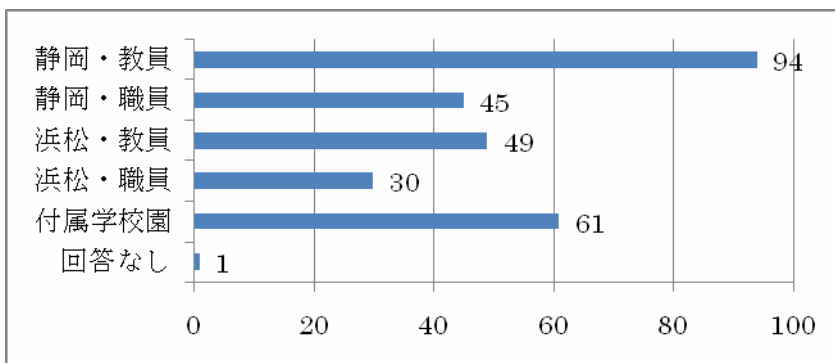
「該当者」として有効回答を寄せてくださった方々280名の特徴を、性別、所属別、子どもの状況別に概観しておく。

1) 性別



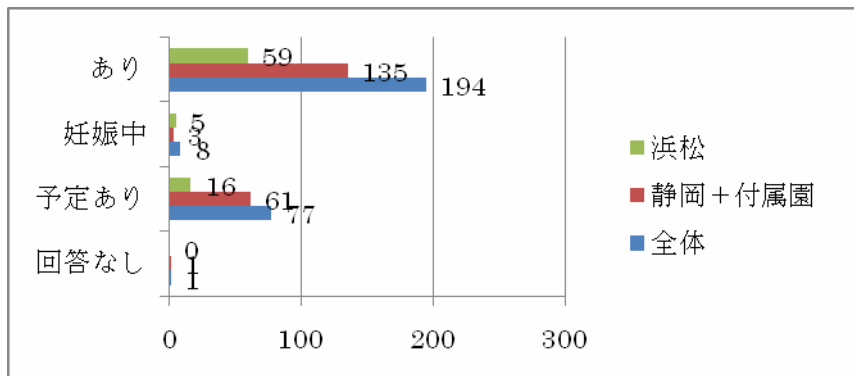
全体に男性の回答者が7割を占め、特に浜松キャンパスでは男性の回答が多い。

2) 所属



所属別に見ると、静岡キャンパスの教員と附属学校園教職員の回答が多い。

3) 子どもの状況



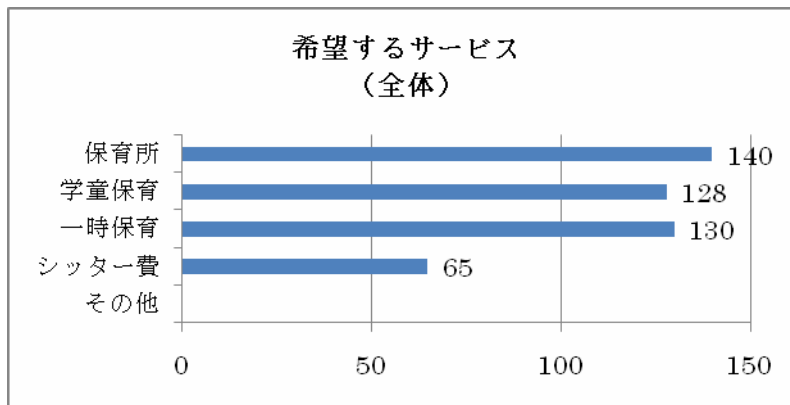
全体で小学生以下の子どもを持つ回答者は194名であるが、近いうちに持つ希望ありとして回答してくださった方も全体で77名あった。

2. 大学全体のニーズの概観

静岡キャンパス、浜松キャンパス、および附属学校園の全該当者 280 名が、総体としてどのようなニーズを持っているか、学内保育ニーズを最大限拾い上げた結果をまとめると以下のようなものである。

1) 希望するサービスについて

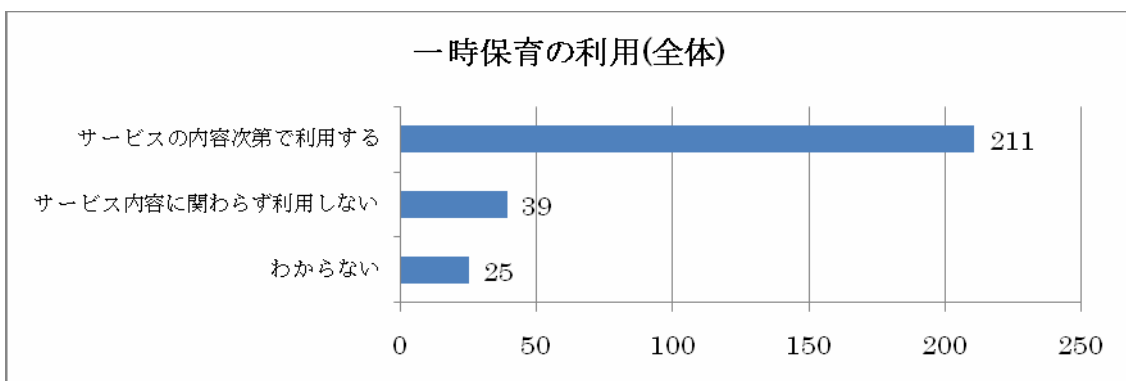
問4 学内の保育施設・サービスとしてあなたは何を強く希望しますか。(複数回答)



保育所、一時保育、学童保育を希望する人が多く、シッター費を希望する人の2倍を示している。学内保育施設サービスのニーズは、それなりにあると言えよう。

2) 一時保育の利用

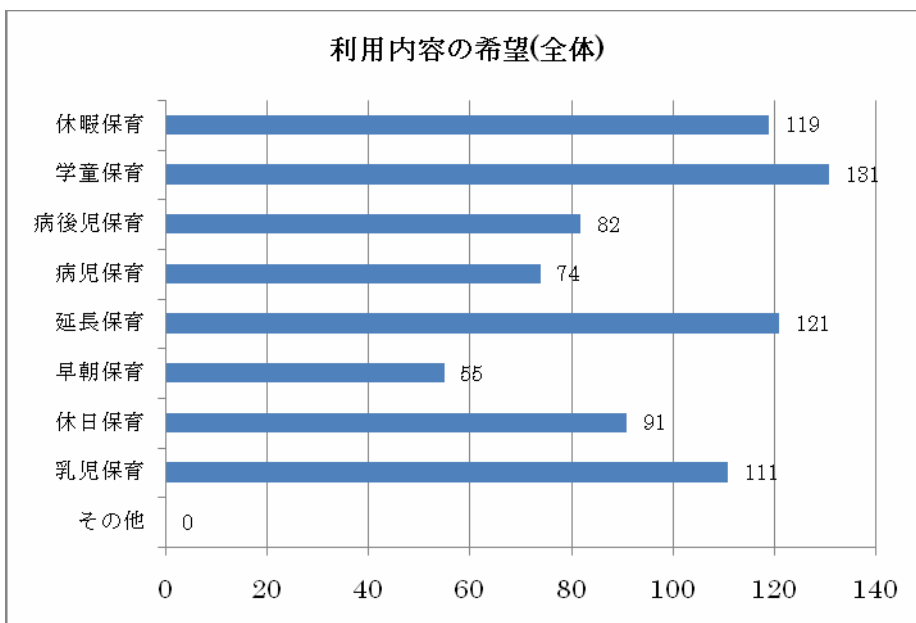
問5 もし学内に一時保育スペースが作られた場合、利用しますか。



「サービスの内容次第で利用する」人は、211 人いる。希望するサービスがあり、保育の質がよい、現在利用しているところより経済的、などのメリットがあれば、現実的な利用につながるかもしれないが、質や費用によっては利用されないと考えなければならない。

3) 一時保育サービスの利用内容

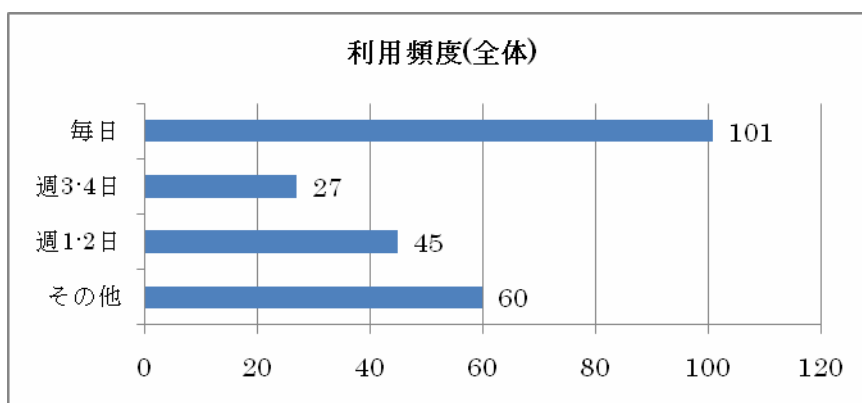
問6 学内の一時保育スペースにおいて、どのようなサービスがあれば利用しますか。
(複数回答)



では、どのようなサービスなら利用するだろうか。「学童保育」と「延長保育」のような夕方の保育、「夏休み等休暇保育」および「乳児保育」の希望が目立って多い。いずれも既存の保育システムではなかなかカバーされないサービスが求められている。

4) 利用頻度

問7 学内に保育施設が設置された場合、どれくらいの頻度で利用しますか。



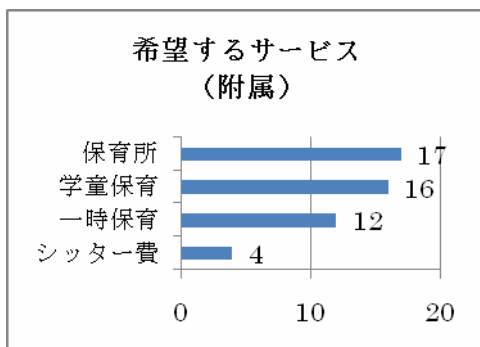
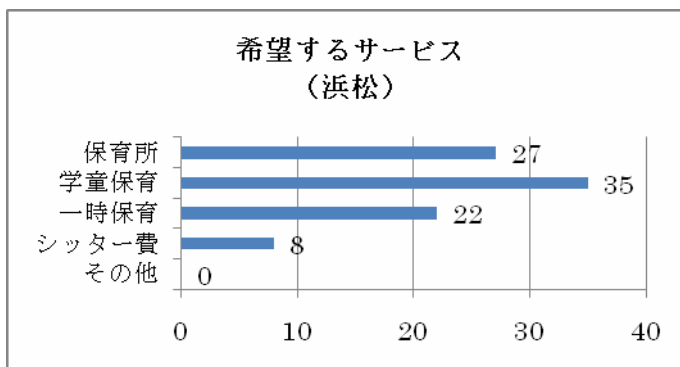
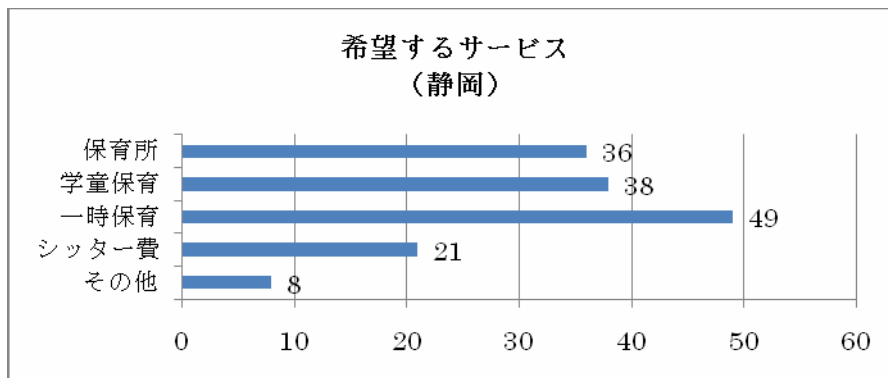
利用頻度は大きく2つのパターンに分かれた。毎日利用するという人が一定数あり、週の半分くらいという人は少なく、週に1～2回や不特定時という人が一定数いる。ここから、レギュラー利用とポイント利用という2つのパターンが示唆される。

3. 静岡キャンパス・浜松キャンパス・附属学校園における「現在ニーズ」

次に、「該当者」の中から「近い将来子どもを持つ希望を持つ人」を外して、「現在ニーズ」がどのくらいあるか、静岡キャンパス（92名）・浜松キャンパス（64名）・附属学校園（46名）のデータを比較しながら検討してみよう。

1) 希望するサービスについて

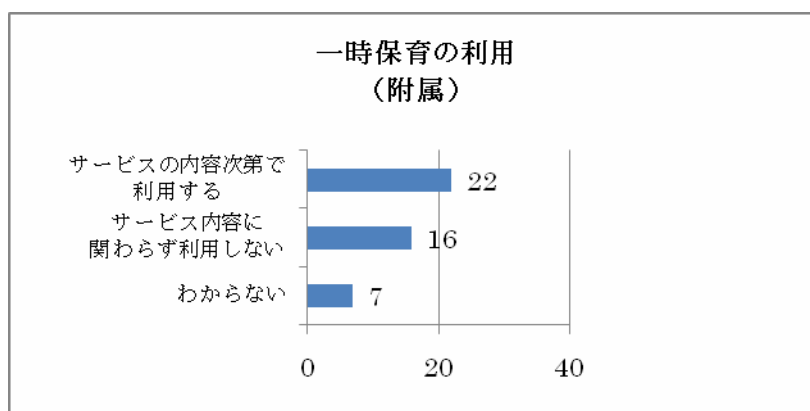
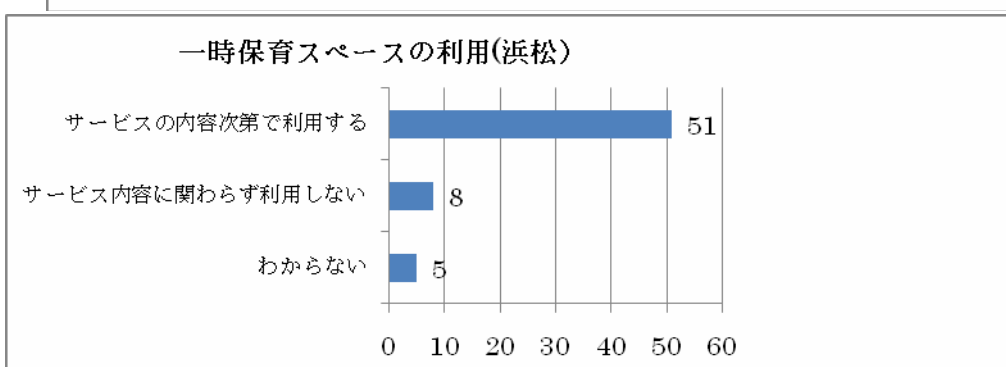
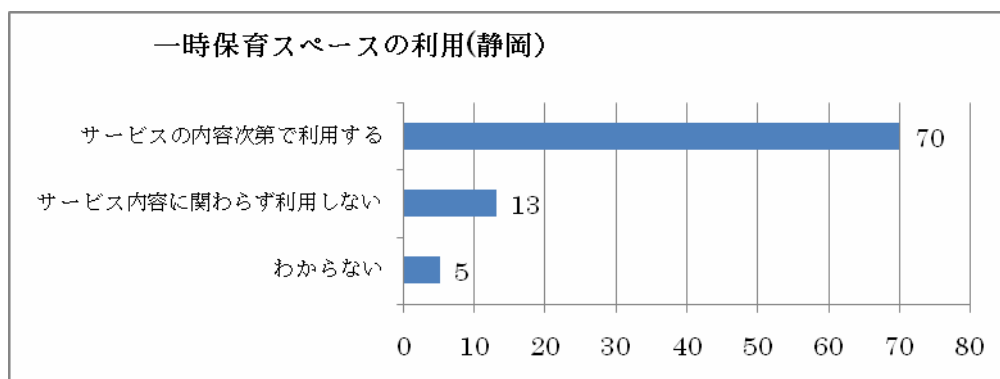
問4 学内の保育施設・サービスとしてあなたは何を強く希望しますか。（複数回答）



静岡キャンパスでは際だって「一時保育」のニーズが高く、次いで「学童保育」「保育所」と続くが、浜松キャンパスでは「学童保育」のニーズが高く「一時保育」ニーズは相対的に低い。附属学校園では「保育所」と「学童保育」のニーズが比較的高い。

2) 一時保育の利用

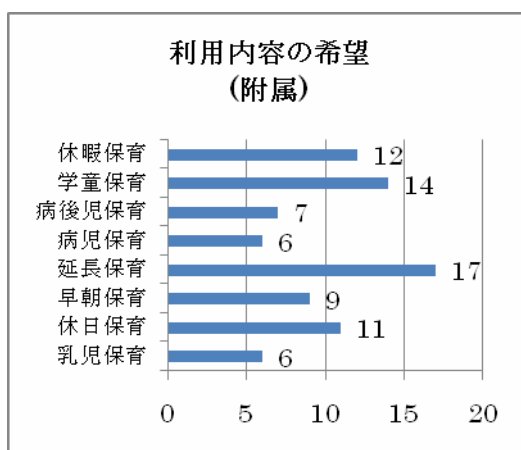
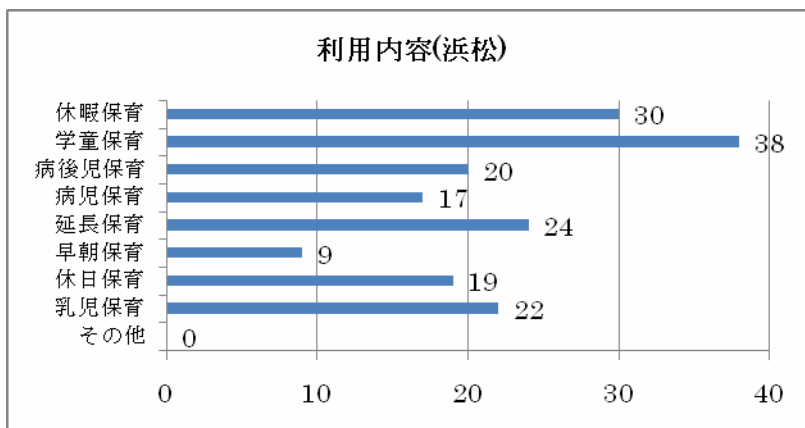
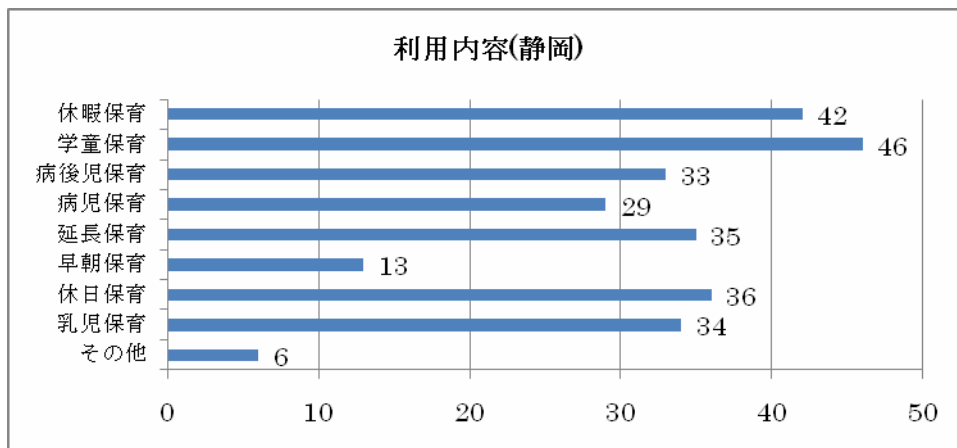
問5 もし学内に一時保育スペースが作られた場合、利用しますか。



静岡キャンパス・浜松キャンパスともに、「サービスの内容次第で利用する」とする人が際立って多いが、附属学校園では「サービスの内容に関わらず利用しない」人が相対的に多くなっている。これは、一時保育スペースが作られる可能性がある場所が大学キャンパス内であろうと想定すれば、当然の回答であろう。メインキャンパスから離れた所に位置している附属学校園の方々にいかなる保育サービスを提供できるか、今後の大きな課題である。

3) 一時保育サービスの利用内容

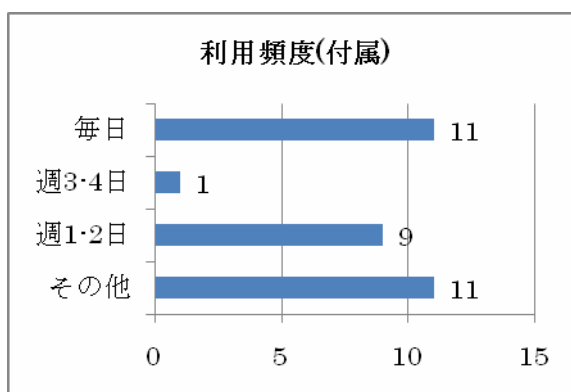
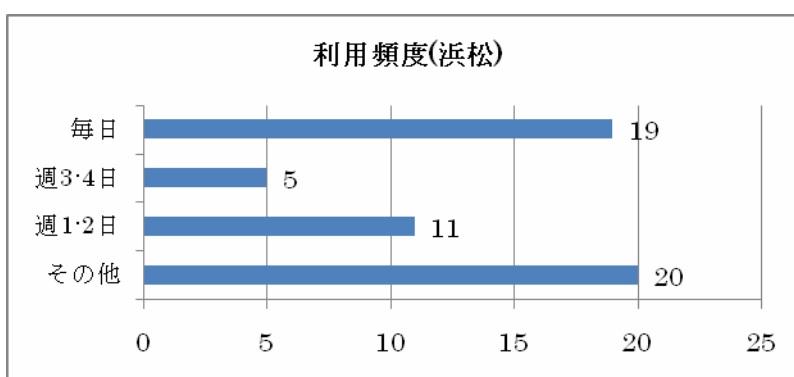
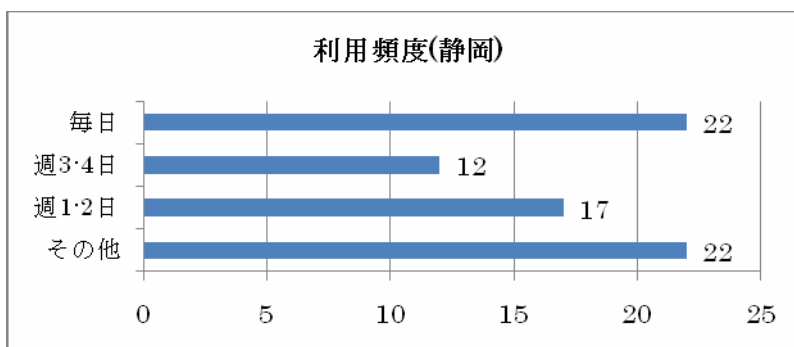
問6 学内の一時保育スペースにおいて、どのようなサービスがあれば利用しますか。
(複数回答)



「学童保育」「休暇保育」「休日保育」「延長保育」「乳児保育」などの希望が多いことは共通だが、特に静岡キャンパス、浜松キャンパスで「学童保育」と夏休みなどの「休暇保育」希望が高く、附属学校園では「延長保育」希望が高い。

4) 利用頻度

問7 学内に保育施設が設置された場合、どれくらいの頻度で利用しますか。



やはりいずれも利用頻度は大きく2つのパターンに分かれた。静岡・浜松・附属ともに、毎日利用するという人が一定数あり、週の半分くらいという人は少なく、週に1～2回や不特定時という人が一定数いる。しかし、「該当者」全体で見たときと較べて、ここでは現に子どもがいる人に絞った「現在ニーズ」で見ているので、すでに多くの子どもはどこかで定常的な保育の場(家庭か保育所)を持っており、その上で学内に保育施設ができれば追加的にどのくらい利用できるか考えているのかも知れない。

4. 制度設計のためのニーズ査定

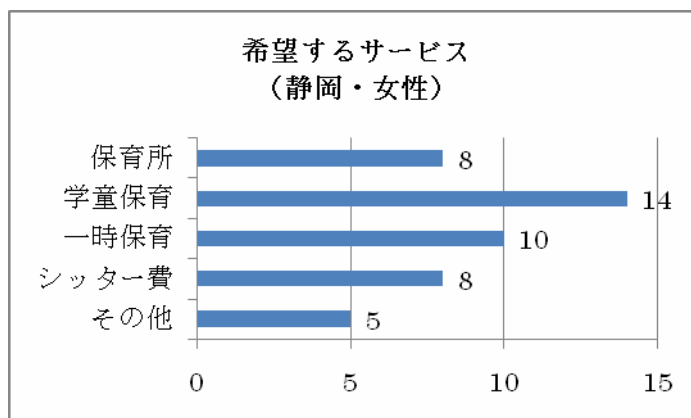
いったいどのくらいの人が学内保育施設を利用するだろうか。現在子どもがいる人と妊娠中の人が「利用したい」と答えていても、日常的に妻が子どもの世話をしている男性では共働きの女性と較べて切迫した高い保育ニーズは見だしにくいと予想される。ニーズを厳しく査定するためには、「現在ニーズ」回答を男女別に分け、さらに男性回答者のうちで子どもの保育方法を「配偶者」と答えている人を外した数字を出してみる必要がある。その結果を静岡キャンパスと浜松キャンパスについて見ていく。

[静岡キャンパス]

1) 希望するサービス

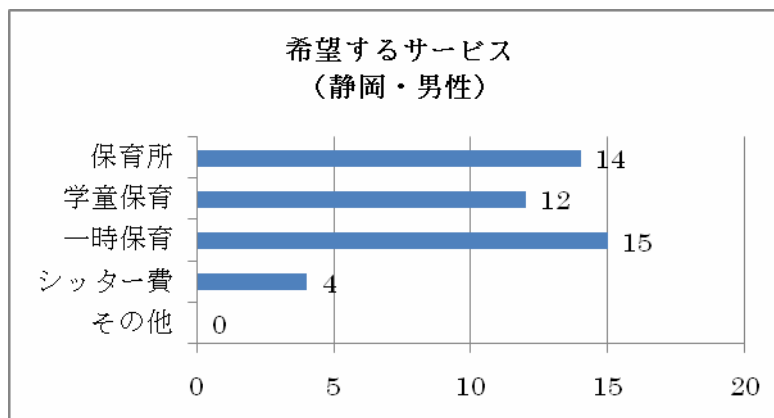
問4 学内の保育施設・サービスとしてあなたは何を強く希望しますか。

子どもがいる女性（将来ニーズ票を外したもの） N=24



静岡キャンパスで現に子どもがいる女性の最も多いニーズは「学童保育」である。

子どもがいる共働き男性（子どもの保育方法が「配偶者」を外したもの） N=25



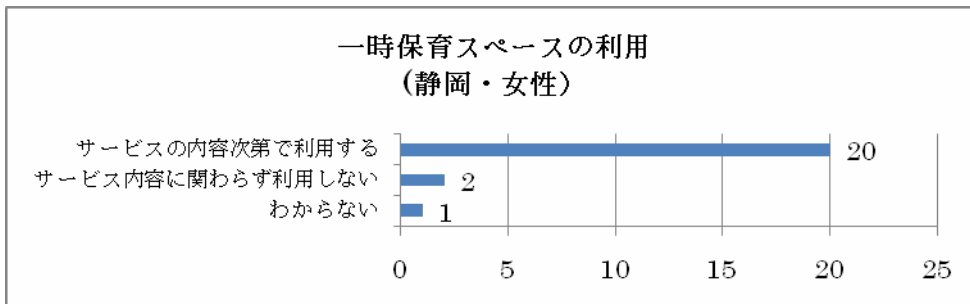
静岡キャンパスで現に子どもがいる男性で共働きの場合、最も多いニーズは一時保育である。子どものいる女性と較べて、ニーズの傾向が異なる。

静岡キャンパスの保育所に対する「現在ニーズ」は36人であったが、査定後22人になる。同様に、学童保育は38人から26人に、一時保育は49人から25人になる。

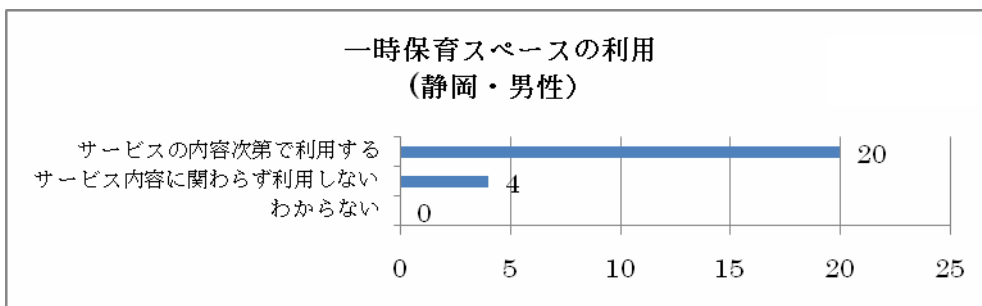
2) 一時保育の利用

問5 もし学内に一時保育スペースが作られた場合、利用しますか。

子どもがいる女性（将来ニーズ票を外す） N=24



子どもがいる共働き男性（子どもの保育方法が「配偶者」を外す） N=25

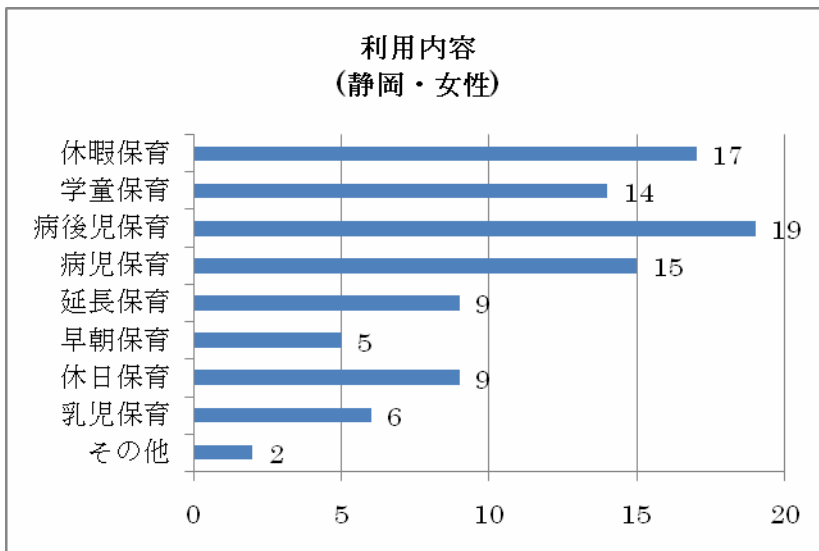


一時保育スペースの利用については、男女とも「内容次第で利用する」が最も多いが、現在ニーズでは70人であったものが査定後40人に減った。

3) 利用内容

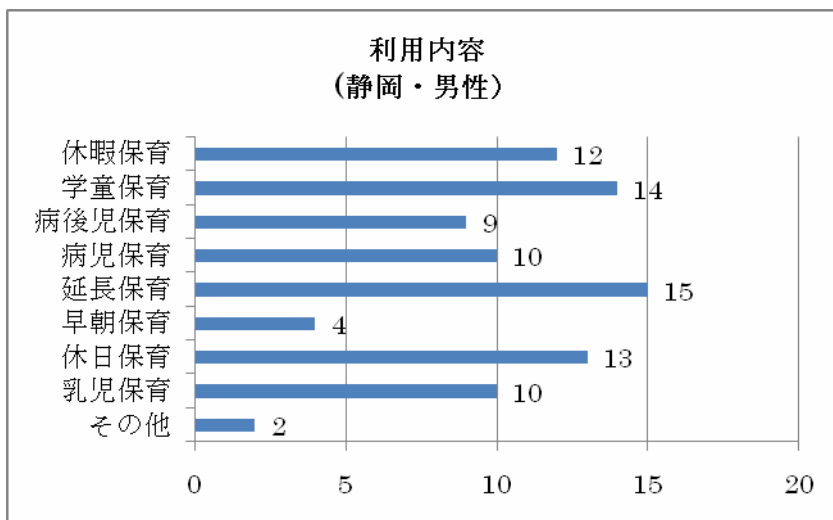
問6 学内の一時保育スペースにおいて、どのようなサービスがあれば利用しますか。

子どもがいる女性（将来ニーズ票を外す） N=24



希望するサービスの利用内容は、男女で差が出ている。女性のニーズは、「休暇保育」「学童保育」と同時に「病児保育」「病後児保育」への希望が目立つ。

子どもがいる共働き男性（子どもの保育方法が「配偶者」を外す） N=25



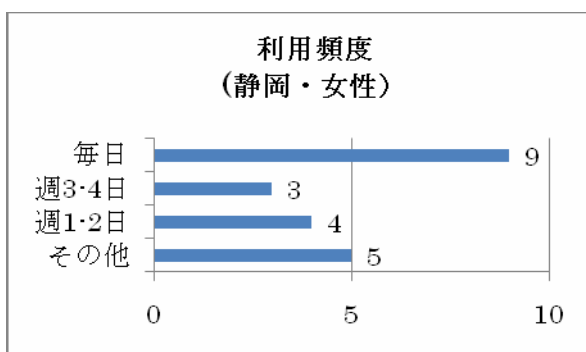
しかし、男性のニーズは「延長保育」「学童保育」「休日保育」が多く、「病児保育」「病後児保育」への希望は目立たない。

総じて、査定後のニーズは、休暇保育が 42 人から 29 人に、学童保育が 46 人から 28 人に、病後児保育は 33 人から 28 人に、病児保育は 29 人から 25 人に、延長保育は 35 人から 24 人に、休日保育は 36 人から 22 人に、乳児保育は 34 人から 16 人に減る。

4) 利用頻度

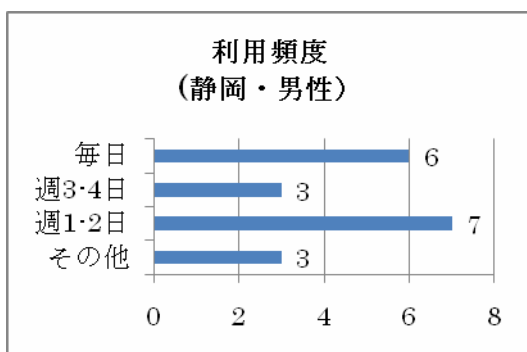
問 7 学内に保育施設が設置された場合、どれくらい頻度で利用しますか。

子どもがいる女性(将来ニーズを外す) N=24



利用頻度についても、少し性差がある。女性の方が「毎日」が多く、男性は「週1-2日」も多い。

子どもがいる共働き男性(子どもの保育方法が「配偶者」を外す) N=25



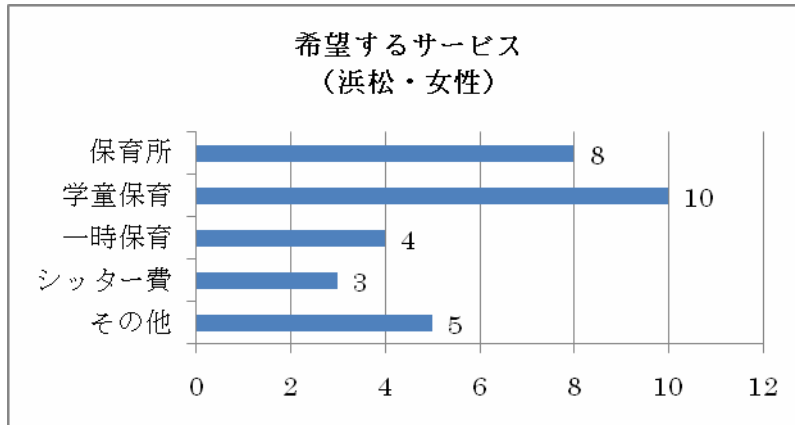
査定後、「毎日」が 22 人から 15 人に、「週1-2日」が 17 人から 11 人に減る。

[浜松キャンパス]

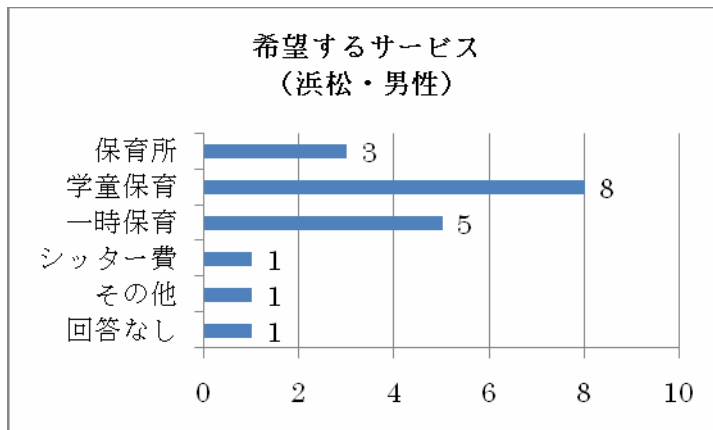
1) 希望するサービス

問4 学内の保育施設・サービスとしてあなたは何を強く希望しますか。

子どもがいる女性（将来ニーズ票を外したもの） N=13



子どもがいる共働き男性（子どもの保育方法が「配偶者」を外したもの） N=15

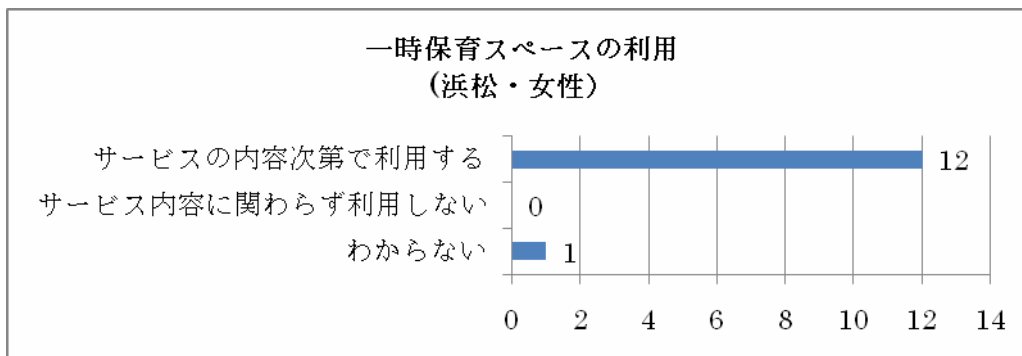


女性・男性とも、学童保育のニーズが多い。査定後、「保育所」希望は27人から11人に、「学童保育」希望は35人から18人に、「一時保育」希望は22人から9人に減る。

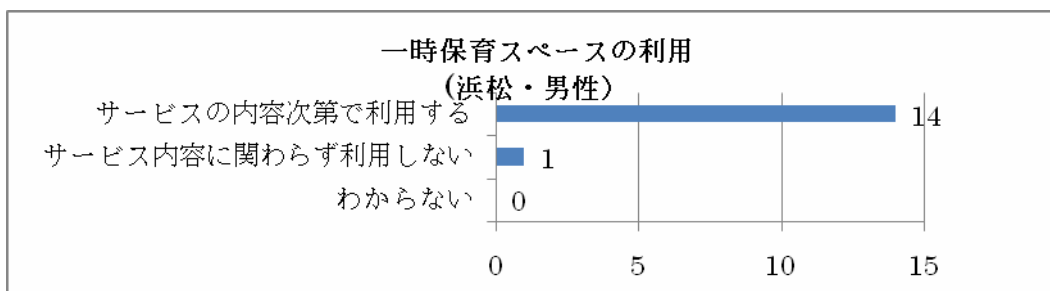
2) 一時保育の利用

問5 もし学内に一時保育スペースが作られた場合、利用しますか。

子どもがいる女性（将来ニーズ票を外す） N=13



子どもがいる共働き男性（子どもの保育方法が「配偶者」を外したもの） N=15

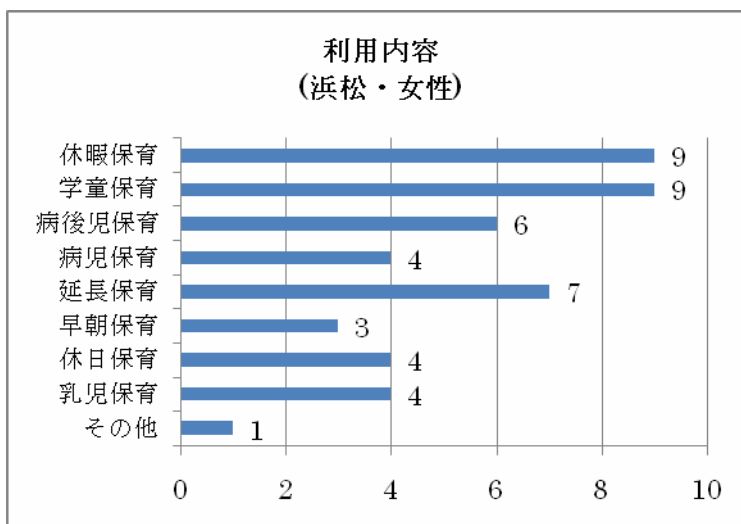


女性・男性とも「サービス内容しだいで利用する」人が多数であるが、51人であった現在ニーズは、査定後26人となる。

3) 利用内容

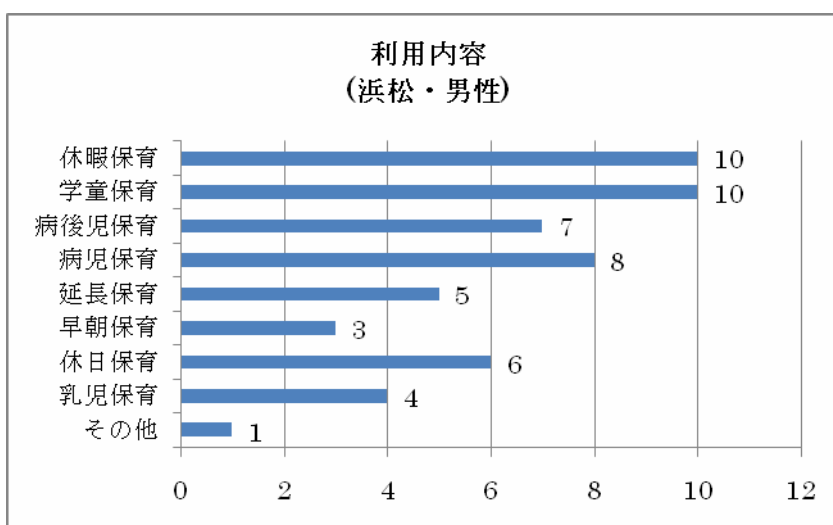
問6 学内の一時保育スペースにおいて、どのようなサービスがあれば利用しますか。

子どもがいる女性（将来ニーズ票を外す） N=13



女性・男性とも、長期休暇中の保育、学童保育の希望が最も多い。次に、女性では延長保育と病後児保育が、男性では病児保育と病後児保育が多くなっている。

子どもがいる共働き男性（子どもの保育方法が「配偶者」を外したもの） N=15

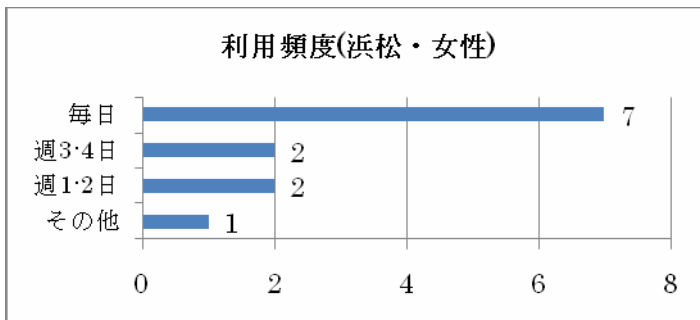


査定後は、学童保育が38人から19人に、休暇保育が30人から19人に、延長保育が24人から12人に、病後児保育が20人から13人になる。

4) 利用頻度

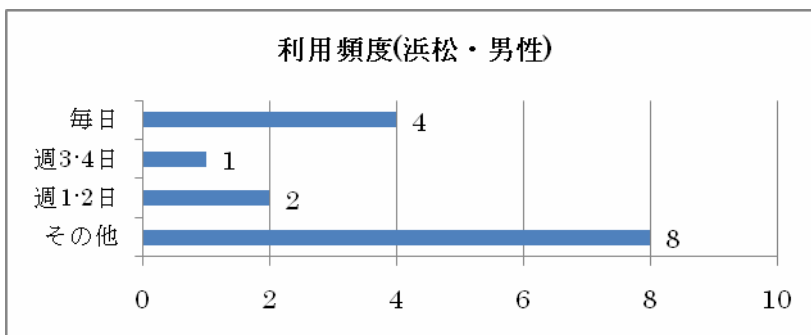
問7 学内に保育施設が設置された場合、どれくらい頻度で利用しますか。

子どものいる女性(将来ニーズを外す) N=13



女性は、毎日の利用が最も多く、男性はその他が多い。その他の具体的内容は、夏休み、学童保育がない期間・妻が病気などの一時的な利用などである。

子どもがいる共働きの男性(子どもの保育方法が「配偶者」を外したもの) N=15



査定後、「毎日」利用は19人から11人に、「その他」は20人から9人になる。

5. まとめ

該当者の全回答で見れば、保育所、学童保育、一時保育のニーズは各130~140名ほどあり、学内に一時保育施設ができればサービスの内容次第で利用する人が200名を越え、毎日利用する人が100名ほど、希望は学童保育、延長保育、休暇保育、乳児保育に集まった。この数値だけ見れば保育ニーズは確かに高く、大学はこの声に応えなければならない。

しかし、近い将来子どもを持つことを希望している人を外して、妊娠中を含み、現在小学生以下の子どもを持つ人に限った「現在ニーズ」で見ると、数値は下がる。さらに静岡大学は2つのキャンパスに分かれ、附属学校園はその間に位置しているため、保育サービス施設の設置は、全学でひとつでは済まない。静岡キャンパス、浜松キャンパス、附属学校園ごとに見た「現在ニーズ」は小さくなる。一時保育スペースをサービスの内容次第で利用する人は、静岡キャンパスで70名、浜松キャンパスで51名、附属学校園で22名である。またニーズのあり方は異なり、静岡キャンパスと浜松キャンパスでは学童保育と休暇保育が、附属学校園では延長保育が多く望まれている。このことから、制度設計にあたっては、まず静岡キャンパスで保育サービスを始めてみて、その経験をふまえながら浜松キャンパスの特徴にあわせた保育サービス、附属学校園のニーズにあった保育サービスを考

えていくことが必要である。このデータから直観的に言えば、通常の保育に加えて、静岡では一時保育、浜松では学童保育、附属学校園では延長保育クーポンのような形が見えてくるのではないだろうか。また、不定期の保育利用では施設の有効活用が保障されないため、地域と連携した定常保育枠の確保も考慮すべき課題であろう。

実際に費用をかけて保育サービスを開始したら、はたしてどれだけの利用が見込まれるのかを査定することは非常に難しい。回答者の7割弱が男性であるが、いつも妻が家庭で子どもをみている男性教職員のニーズがどの程度の頻度かという点も差し引いて考えなければならない。ここでは子どもの保育者が妻ではない男性に限ってニーズを絞り込む査定を試みた結果、静岡では一時保育スペースの利用希望は40名、保育所希望22名、学童保育希望26名、一時保育希望25名となり、利用したい一時保育のメニューは、休暇保育29名、学童保育29名、病後児保育28名などとなった。浜松では査定後、一時保育スペースの利用希望は26名、保育所希望11名、学童保育希望18名、一時保育希望9名となり、利用したい一時保育のメニューは、休暇保育19名、学童保育19名、病後児保育13名などとなった。

たとえ多くの方々が利用したいと書いてくださっても、現実に今利用している地域の保育施設から子どもを引き上げて学内保育施設に転ずるには、学内保育サービスの内容にメリットがなければならないだろう。自宅や職場からの距離も問題になるだろうし、職場の保育所はとかく均質な家庭環境の子どもが集まりやすい傾向があり、地域のなかで多様な家庭の子どもが共に育ちあうメリットも捨てがたいであろう。また、休日や夜の保育を保障するより、休日や夜に働かないですむ環境を整えることが大切だという意見もあるだろう。

本調査でわかったことは、静岡大学における保育ニーズは高いこと、しかし制度設計には慎重な検討を要することである。制度設計のヒントとしては、以下の点が挙げられる。

- ①ある程度のニーズは見込めるが、安定運営には工夫が必要。
- ②静大の男女共同参画とワーク・ライフ・バランスのシンボルとしての保育サービスという考え方を採用する。
- ③乳児保育を含む通常保育のほかに、学童、延長など夕方保育へのニーズ、夏休みなど休暇保育へのニーズに注目し、また将来病後児保育にも広げる。
- ④定常的利用者と不定期利用者に対応する。
- ⑤ランニングコストがかからないで質が保証されるような業者選択が必要。

以上、本調査結果をふまえて、静岡大学における保育サービスの制度設計に関わる議論が真剣かつ冷静に行われることを期待する。

男女共同参画推進委員会 船橋恵子(委員長) 冬木春子(委員) 森本隆子(委員)
渡邊保博(協力教員)

男女共同参画推進室 特任助教 水野桂子(内 3052, sankaku-s@adb.shizuoka.ac.jp)